

Top Message

ごあいさつ

グループ全体の技術、人材、
知識を結集、融合させ、
様々な課題を克服してまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



当上半期の業績について

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

まず、当社グループの第157期上半期(平成21年4月1日～平成21年9月30日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当上半期のわが国経済は、昨年の金融危機以降の急速な悪化が下げ止まり、持ち直しに転じましたが、依然として生産や設備投資の水準は低く、予断を許さぬ状況が続きました。海外においては、中国やインドなどの新興国の経済が成長軌道に戻りつつある一方で、先進国の景気回復の足取りは重く、全体としては混沌とした状態が続き、現在に至っています。

当社グループを取り巻く需要環境も斑模様を呈しています。世界各国による景気刺激策の効果などにより、国内およびアジア向けの自動車や電機関連需要に上半期の途中から回復が見られたほか、中国における油圧ショベルの需要は活況を呈しました。一方で、国内外における製造業の設備投資に関連した需要は低迷が続き、造船向けの需要にも

減速が見受けられるなど、極めて厳しい事業環境であったといえます。

このような環境のもと、当社は、営業面では、販売価格の維持と販売数量および受注案件の確保に努めました。また、生産面では、素材系の事業を中心に引き続き低操業を余儀なくされる中で、一層のコストダウン活動に取り組みました。

こうした取組みが一定の成果をあげたものの、前半の販売数量が低水準に止まった影響が大きく、当上半期の連結業績は、売上高は7,881億円、営業損益は246億円の損失、経常損益は442億円の損失、税引き後の当期純損益は453億円の損失と厳しい結果になりました。

当期の中間配当につきましては、当期純損益が大幅な赤字となったことや、今後も厳しい経営環境が続くものと予想されることなどを総合的に勘案し、前期の期末配当に引き続き見送ることとさせていただきます。株主の皆様のご期待に沿うことが出来ず、誠に遺憾ではございますが、事情

をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜わりますようお願い申し上げます。

今後の見通しと取組みについて

今般、当上半期の業績発表と併せて、年度の業績見通しを発表しております。売上高は1兆6,350億円、営業利益は200億円、経常損益は200億円の損失、税引き後の当期純損益は350億円の損失を見込んでおります。年度での経常損益は赤字の見通しではありますが、当下半年は、平成20年度下半年、平成21年度上半期と続いた経常赤字から、経常黒字への回復を計画しており、確実な達成に向け、これまで以上のコストダウンと営業努力に取り組んでまいります。

当社を取り巻く環境は、一年前に比べ落ち着きを取り戻しつつありますが、今後、各国政府による景気刺激策の効果が途切れた場合に、所謂「二番底」に陥る不安が拭えないなど、経済情勢は依然として不透明な状況です。

昨年の金融危機以降、経済情勢の見通しが極めて不透明であったことから、現在のところ、当社グループでは今後の中期的な数値計画を設定するに至っておらず、株主の皆様からは当社グループの将来像が見えにくい状況にあると感じられるかもしれません。しかしながら、どのような経済状況にあっても将来の成長戦略は必要であり、この上半期においても、北米での圧縮機工場の拡張やインドでの油圧ショベル生産拠点の新設など、将来の成長に必要な施策については機を逸することなく決定してまいりました。

また、このたび、グループ内で各事業の「中長期ビジョン」に関する議論も開始しております。あらためて、グループの

各事業において、成長を目指した「中長期ビジョン」を見定め、それに至る道筋を整理していきたいと考えております。しかるべき時期に中期経営計画として取り纏め、皆様にご説明できる様、鋭意検討を進めてまいります。

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと思われれます。また、地球環境と調和しながら事業を継続するために、これまで以上の努力、画期的な技術革新も社会から求められています。このような課題を克服し、成長を遂げるためには、当社グループが有する様々な分野にわたる技術、人材、知識を結集、融合させることが必要であると考えています。

当社グループは、これからも全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましてはなお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成21年11月

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します